



地域とともに

発行所
山陽新聞社
岡山市北区柳町2-1-1

電子版山陽新聞デジタル
<https://www.sanyonews.jp>

接合面加工機2台導入

桂スチール 岡山第3工場 特殊H形鋼対応

高層・大型の建築物に使われる鉄骨「ビルトH形鋼(BH)」の国内トップメーカー・桂スチール(兵庫県姫路市)は、岡山第3工場(備前市三石)に溶接する鋼材の接合面を削る「開先加工機」を1セット(2台)導入した。H形鋼の特殊タイプ用で、作業の自動化によって生産性の向上などを図った。

同社は岡山县内6工場で工程を分担しながら鋼板を切断、溶接するなどして大型、長尺、特殊形状のBHのほか、BHとI形鋼を組み合わせた十字柱などを手

掛ける。開先加工は、溶接前に接合する部分を削ってくぼみを作る作業。くぼみがあることで溶接用の金属が深く溶け込み、鋼材同士の密着性が増して強度が高まる。

新たな開先加工機は左右に1台ずつ配置し、H形鋼を挟み込むようにして両側から溶接面を削る。特殊タイプのH形鋼はこれまで手作業で加工していたが、自動化によって作業者の負担軽減や納期短縮を実現した。9月にはさらに1セット入れる。

このほか、岡山第1工場

(同市吉永町

神根本)と岡

山第2工場

(同市吉永町

岩崎)では、

8月の完成を

目指して自家

消費用の太陽

光発電設備を

建設中。稼働

後は両工場の

電気代を4割

程度削減でき

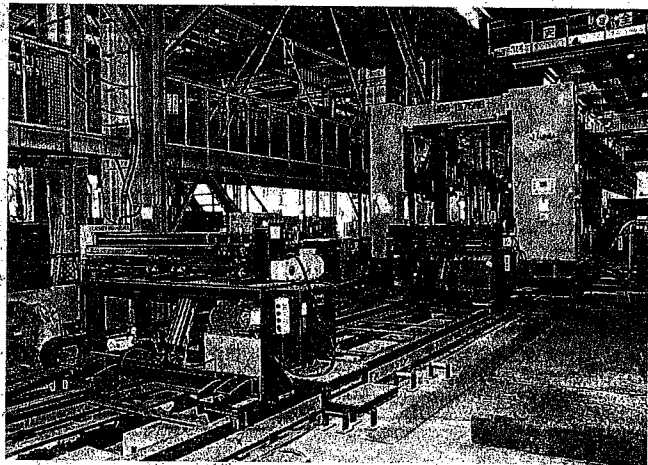
るといっ。一

連の投資額は

約6億円。

同社による

と、東京や大



桂スチールが岡山第3工場に導入した特殊タイプのH形鋼用の開先加工機

阪など各地で再開発事業が進み、受注は堅調に推移しているという。三木桂吾社長は「生産設備の自動化は残業時間削減などの働き方改革にもつながる。今後も推進するとともに、カーボンニュートラル(温室効果ガス排出実質ゼロ)の取り組みも加速させていきたい」と話している。

桂スチールは1985年設立、資本金5750万円、売上高106億2千万円(2021年9月期)、従業員約200人。

(河内慎太郎)